

# 高大連携による地域をテーマにした課題探究型学習 ーデジタルアーカイブを活用したふるさと教育の実践ー

熊崎 孝之\*<sup>1</sup> 久世 均\*<sup>2</sup> 磯村 絢香\*<sup>3</sup>

<概要>岐阜県立郡上北高等学校では、コロナ禍でこれまでのようなフィールドワーク中心のふるさと教育の実践が困難な状況となった。そのため、デジタルアーカイブを活用した課題探究型学習が導入された。デジタルアーカイブは、広大な郡上市の観光資源の情報を手軽に入手しやすいことから、生徒はこれまで以上に郡上市の魅力を見出す機会となった。また、成果物を地域活性化のために活用することは、生徒の自己有用感を高め、将来地域に貢献したいと考える意識変容に寄与した。デジタルアーカイブを活用したふるさと教育の実践は、学校内外で学校の魅力と認識され、令和4年度から実施される新教育課程において、学校設定科目「デジタルアーカイブ」導入に向けた原動力となった。

<キーワード>デジタルアーカイブ、高大連携、ふるさと教育、遠隔教育、地域連携

## 1. はじめに

本実践は、デジタルアーカイブを活用したふるさと教育の実践例である。本実践は、オンラインツールと対面を併用した高大連携による継続的な授業支援という特徴がある。

実践校である岐阜県立郡上北高等学校は、岐阜県と福井県の境にある郡上市白鳥町に所在する1学年105人定員（3クラス規模）の小規模校であり、ほぼすべての生徒が郡上市内の中学校から進学している。とりわけ郡上市北部に所在する中学校3校からの進学者が大半を占めており、地域の学校ともいえる。例年、卒業生の4割前後を占める就職希望者の7割が郡上市内に就職している。また、進学希望者の面接練習でも、将来地域に貢献するために郡上市に戻りたいと述べるようになり、実践校のふるさと教育が「郡上市で育った生徒が郡上市を支える」という好循環の一端を担っている。

この地元志向の傾向は、郡上市の魅力を見直し、発信する活動「KCD（北高・地域とともに・発展）プロジェクト」によって、地域とのつながりを重視したふるさと教育を開始した平成28年度から顕著となっている。

ふるさと教育は、第三次岐阜県教育ビジョン\*<sup>1</sup>でも必要性が述べられている。特に実践校のような中山間地域に所在する小規模校においては、学校と地域を強く結びつける活動を通じて地域の魅力を知り、地域課題解決のために協働的で深い学びを提供することが求められている。

しかし、新型コロナウイルス感染症が拡大する中で、実践校がこれまで取り組んでいたようなふるさと教育が困難となった。

本実践は、そのような状況下で導入されたデジタルアーカイブを活用したふるさと教育の実践例であり、岐阜県内はもちろん、日本全国の中山間地域に所在する小規模校において応用されることが期待できる。

## 2. 実践

### (1) 理論

本実践は、課題探究型学習を机上の理論として終えるのではなく、生徒一人ひとりがもつ知識を活用し、協働的に成果物を制作する過程で学びを深めていくとともに、成果物を次の教材として活用することで新たな成果物を創造する「クリエイティブ・ラーニング」\*<sup>2</sup>を念頭に置いた。

### (2) 体制

実践校は、クリエイティブ・ラーニングの学びとデジタルアーカイブの学びの提供を持続可能なものとするため、これまで教科単位で連携をしていた岐阜女子大学と正式に連携協定を結び、継続的な支援体制の構築を果たした。

### (3) 校内での位置づけ

令和2年度にデジタルアーカイブを活用して制作した観光冊子「郡上探訪 郡上であそぼ」の完成までの過程で、生徒が地域との結びつきを実感し、生徒の自己有用感を高めるとともに、進路希望が地元志向に変容した\*<sup>3</sup>ことから、

\*<sup>1</sup> Kumazaki, Takayuki：岐阜県文化伝承課 e-mail=kumazaki-takayuki1@pref.gifu.lg.jp

\*<sup>2</sup> Kuze, Hitoshi：岐阜女子大学 e-mail=pfe01173@nifty.com

\*<sup>3</sup> Isomura, Ayaka：岐阜県立益田清風高等学校 e-mail=ayakah9714@outlook.jp

本実践でも同様の教育効果を期待し、ふるさと教育の1つとして位置づけた。

### (1) 郡上市の観光地紹介動画

- 授業名：情報デザイン
- 単位数：2単位
- 生徒数：2年生24名
- 担当者：教員2名（美術科・数学科）
- 実施期間：6月～9月

本実践は、情報デザインの目標である「コンピュータ等を活用した実習などの体験的な学習活動を通して、情報を制作する上で必要となる情報デザインに関する基礎的な知識と技術を習得させる」を達成するために、デジタルアーカイブを活用した授業を導入した(表1)。しかし、高等学校教員(情報)の免許をもつ教員が配置できないため、専門的な学びの提供が危惧された。そこで、岐阜女子大学の支援を受けながら授業を実施した。

表1 デジタルアーカイブの授業内容

回	月	日	曜日	時間	内容(テキスト:デジタルアーキスト入門 樹村房)
1	6	17	木	9:00~10:30	1章 デジタルアーカイブとは
2		24	木	9:00~10:30	2章 郡上の文化を探り、白山文化について理解する。
3	7	1	木	9:00~10:30	3章 郡上の地域の課題から地域課題の解決方法を探る。
4		8	木	9:00~10:30	プロモーションビデオの制作に挑戦
5		15	木	9:00~10:30	4章 シティプロモーションビデオの企画
6	9	2	木	9:00~10:30	プロモーションビデオ制作
7		9	木	9:00~10:30	プロモーションビデオ制作
8		16	木	9:00~10:30	プロモーションビデオの発表と資格認定試験

授業では、岐阜女子大学のもつ郡上白山文化遺産デジタルアーカイブ<sup>※4</sup>を活用し、郡上市の紹介動画を制作した。この動画は郡上市内の道の駅にあるデジタルサイネージに流すなど、活用を検討している。授業は16時間で計画され、対面とオンラインを併用し岐阜女子大学教授から直接指導を受けた。副教材のテキストをもとに、デジタルアーカイブの基礎的な内容を学んだ後、郡上市の課題を考えるためにRESAS(地域経済分析システム)を活用して地域課題を探究した。学校側が貸与しているタブレットを使用し、8グループに分かれて郡上市の紹介動画を制作した(図2)。

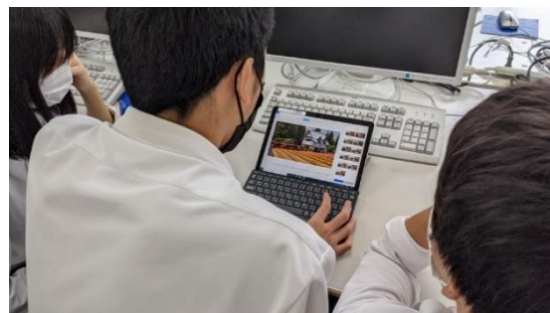


図2 動画作成をする生徒

当初、動画撮影や編集となると高度な技術やソフトが必要になると思われたが、貸与タブレット(surface go2)に入っている基本ソフトで十分対応した。生徒は、練習として制作した学校紹介動画のブラッシュアップを重ねることで、動画制作の基礎的な技術を身に付けた。途中、新型コロナウイルス感染症拡大による休校措置のため、教授が来校できなかつたが、動画をYouTubeにアップロードして指導を仰ぐなど、学校側も柔軟な対応をした。生徒は、授業が進むにつれ動画制作に興味をもち、放課後などを利用してブラッシュアップに励む姿も見られた。完成した作品は、地元のケーブルテレビ会社社長を招いた最終発表会で披露されたが(図3)、どのチームも動画の意図を汲み取ってもらったことを喜んだり、改善点を伝えられて悔しさをにじませたりしていた。



図3 最終発表会の様子

この学びの定着度合いを図るため、日本デジタル・アーキスト資格認定機構主催「準デジタル・アーキスト試験(短大卒程度)」に挑戦し、多くの生徒が試験に合格した。また、試験後の文化祭では、この技術を活かしてクラスの動画作品を制作しており、知識・技能を活用する姿が見られた。さらには、同じ生徒が履修している「地域探究」(学校設定教科「地域」)では、郡上市を紹介する動画を制作する際に調べた郡上市の課題「宿泊

客が少ない」「面積が広いため観光資源が市内に点在している」等を解決するために観光ツアーを提案するなど、さらに探究を深めた。この教科横断的な学びを実現するためには、教員間の連携が必要である。デジタルアーカイブが教員間の会話で日常的に取り上げられてきたことで実現したと考えている。

本実践は校外外で高く評価され、令和4年度入学生より商業科の学校設定科目「デジタルアーカイブ」（2単位）として設置することになった。コロナ禍によって急速にデジタル化が進み、デジタルアーカイブの学びは生徒が働く上での強みになるだけでなく、新たな雇用の創出につながることも期待できる。実際に郡上市内にはテレワークオフィスがあり、大都市圏の企業から試行として派遣されている。また、中山間地域に住み、高等教育機関に通うことが地理的に不利な生徒が、高校在学中に専門教育を受講できる機会を与えられることは、教育の機会均等に寄与するだけでなく、高等学校の魅力化につながると考えている。

## (2) 郡上市との連携ー散歩マップの制作

- 授業名：観光学基礎(学校設定科目)
- 単位数：2単位
- 生徒数：2年生25名
- 担当者：教員2名(商業科・美術科)
- 実施期間：4月～9月

岐阜女子大学のデジタルアーカイブを活用したふるさと教育として「ゆったり健康になろう」プロジェクトと題した散歩マップの制作がある。この実践は、少子高齢化が進む郡上市で、だれもが安心・安全に散歩できるコースをつくるという、生徒発案の課題探究型学習である。このプロジェクトでは、郡上市健康課と協力して郡上市内の7つの町ごとに散歩コースを選定した。郡上市健康課からは、散歩コースの距離は5km程度、時間は1時間半程度で完歩するという目安を示されただけで、生徒は、Googleマップを利用しながらコースを考案した。考案したコースは、放課後や休日に郡上市担当者と実際に歩いてテストをした。テストを重ねる中で、生徒たちはただ散歩をするのではなく、楽しんで散歩してもらおうと、観光スポットの紹介を入れたと考えた。観光スポットを紹介する際のデジタルアーカイブは、岐阜女子大学の

もつ既存のものだけでなく、生徒が知っている身近な観光スポットを岐阜女子大学に提供することでコンテンツを増やしていった。あまり知られていない観光スポットを他の町に住む郡上市民にも知ってもらえるように分かりやすく掲載したり、道を間違えやすい部分には目印を紹介したりするなど、利用者目線のブラッシュアップを重ねた(図4)。



図4 散歩マップの一部

観光スポットの紹介は、前年度の制作物である観光冊子「郡上探訪 郡上であそぼ」を参考に、QRコードを読み込むことで、詳細な情報が提供されるよう工夫した。制作物を完成して終わるのではなく、過去の制作物を参考に新たな制作物を創造する学びは、個人ではなく集団で探究のサイクルを回していると捉えられ、よりよい成果物の創造が期待できる。また、成果物を制作する度に、情報が更新され、常にデジタルアーカイブがアップデートされることが期待できる。

完成した散歩マップを活用するために、郡上市が主催となって実践校の所在地である白鳥町でウォーキング大会が企画され、制作した生徒も運営に参加した(図5)。



図5 散歩マップの一部

当日は天候にも恵まれ、地域住民を中心とした70名がウォーキング大会に参加した。この実践に取り組んだ生徒代表2名は、参加者からあたたかい声をかけられたことに達成感を感じたことや、郡上市民のためによりよい散歩マップをつくりたいと意識が変化したことを述べた。また、より多くの人に散歩マップを知ってもらうために、令和4年度にも同様のウォーキング大会を企画するなど、郡上市に貢献し続けたいという意欲が感じられた。この代表生徒2名は進路希望を公務員に変更するなど、学びの経験が進路目標に影響を与えている。また、学校側も課題探究型学習で陥りがちな、机上の空論で終わることや成果物を完成させて終わるのではなく、それを活用することで、生徒が地域課題を自分事として捉え、主体的に探究する変容を目の当たりにした。

コロナ禍においても、デジタルアーカイブを活用することで、ふるさと教育は可能だと分かり。実践校における地域をテーマにした課題探究型学習の手法に深みが増した。

#### 4. 成果

本実践では下記の2点を成果と捉えている。

##### (1) 実践校におけるデジタルアーカイブの認知度の上昇

実践校では、令和2年度からデジタルアーカイブの学びを取り入れてきたが、今春の卒業生75名のうち在学中にはデジタルアーカイブを学ぶ機会が無かった2名が、デジタルアーカイブを専門的に学ぶことができる大学に進学した。これは、過去10年間でなかったことである。実践校でのデジタルアーカイブを学ぶ生徒の様子が地元のケーブルテレビや新聞に取り上げられたことで興味をもつ機会になったことや、進路指導を担当する教員がデジタルアーカイブとは何なのか具体的なイメージがつかないことが要因だと考察している。また、前述のとおり、これまでは限定的に開講されていたデジタルアーカイブの学びが、「デジタルアーカイブ」という具体的な科目として生徒全員が履修することができるようになったのは、校内での認知度が上昇しなければ果たせないことである。

##### (2) 情報教育の外部リソースの活用

独立行政法人大学入試センターは、平成30年度に告示された新学習指導要領を受け、大学入

試共通テストにおいて、従来の5教科7科目に加えて、情報が加わると発表した<sup>※5</sup>。その一方で、高等学校教員（情報）の免許を保有する教員不足が問題になっており、文部科学省の調査（2020）によると、全国の公立高校の情報担当の5072人の教員のうち、1210人が高等学校教員（情報）の免許をもっていないことが判明した。

中山間地域の小規模校では、情報Ⅰのみの単位数では高等学校教員（情報）の免許をもつ教員を確保することは難しい。そのため、免許をもたない教員が授業をもつことが多くなりやすい。実践校においても、情報の授業を数学科や理科の教員が担当する場合が多い。

文部科学省は、このような状況をふまえて、情報技能に係る高い専門性を有した外部人材の活用などの具体的な対策を示しているが、本実践は、高大連携協定を結ぶことで継続的に情報教育の支援を受ける体制を構築しており、モデルケースになることを期待している。

#### 5. 今後の展望

少子高齢化が加速する中で、地域の伝統文化を記録し後世に遺していくことが課題となっている。この課題を解決するのがデジタルアーカイブである。実践校でデジタルアーカイブを学んだ生徒が、地域の伝統文化を愛し、そのデジタルアーカイブを蓄積していく体制づくりを、行政とともに開発していくことを期待したい。

#### 「参考文献」

- [1] 岐阜県教育委員会, 2019  
<https://www.pref.gifu.lg.jp/uploaded/attachment/125797.pdf>
- [2] 鈴木寛, 岩瀬直樹, 今井むつみ, 市川力, 井庭崇, クリエイティブ・ラーニング創造社会の学びと教育, 慶應義塾大学出版会, 2019
- [3] 熊崎孝之, 久世均, 2021, 課題探究型学習におけるデジタルアーカイブの役割と意義-コロナ禍の中で広がったオンラインの学びから-
- [4] 郡上白山文化遺産デジタルアーカイブ(岐阜女子大学文化創造学部)  
<http://digitalarchiveproject.jp/category/database/hausannbunika>
- [5] 独立行政法人大学入試センター, 2021, 「平成30年告示高等学校学習指導要領に対応した令和7年度大学入学共通テストからの出題教科・科目について

